

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

グローバル人材とは

木下久恩
Kuon KINOSHITA
物質化学科 3年

1. はじめに

私は8月17日から9月4日の日程でグローバル人材育成プログラムに参加しました。参加した理由は2つあります。1つ目に、私は大学卒業後、海外の企業もしくは、海外での勤務をしたいと考えているからです。そのためにこのプログラムはとても良い機会でした。2つ目は、英語学習に対する意識付けです。現状、自分の英語力は海外で勤務可能なレベルに到底及んでいません。それを再確認し、英語学習の意欲に繋げようと考えました。

表1 研修日程（現地日付）

| | |
|----------------------|---------------|
| 8月17日（木） | 出国，サンフランシスコ観光 |
| 8月18日（金） | シリコンバレー見学 |
| 8月19日（土） | 講演会 |
| 8月21日（月）～ 9月1日（金） | 研修 |
| 9月4日（月） | 帰国 |

2. 講演会

8月19日に現地で働いている三人の方の講演を見に行きました。その三人の中でも最初に講演してくださいました山田理さんが一番印象的でした。山田さんはサイボウズという会社で働いており、一番プレゼンテーションが上手かったように感じました。山田さんが私たちに伝えてくれた内容は「人を人種などで見るのではなく個で見ることの重要性」です。その人に興味を持ち個人として尊重することが理解へと繋がります。その中で、しっかりと個性を持ち、自分にできないことは他の人にカバーしてもらい、他の人にできないことは自分がカバーしていくことが大切だと仰っていました。

たいていの場合、答はYES or NOではなく、その間にあることが多いので同じ目標を持った仲間とは議論することが大切です。仲間でも苦手な人がいてもいいが、同じ目標を持っているなら手を組み、お互いに認め合うことが最も重要だということをこの講演会から学びました。

3. 研修先企業概要

今回、私は「Nippon Trends Food Service」というラーメンの製造をしている工場研修をさせていただきました。場所はサンノゼ市内から車で10分程のところでした。リンガーハットというレストランが元々工場を経営していて、約20年前にリンガーハットが工場から撤退し、今の会社が設立されました。基本的にはラーメン店向けの生麺の製造をしています。社長は本業の傍ら、ラーメン店に対してコンサルティング業務を行っていました。

4. 研修内容

私は今回、菌検査を行いました。研修初日、次期社長のヒロさんという方が私に「木下さんは何ができますか？ 英語は？」と訊いてきました。私は「パソコンや電話対応以外はできます。英語は日常会話レベルです。」と答えました。すると「では菌検査をお願いします。現在菌検査をしている方が来週バケーションを取るので代わりに仕事ができるようにして下さい。」と言いました。しっかりとメモを取り、分からないことは聞き返して確認するなどして、仕事を覚えていきました。主な一日の流れは、出勤後、前日に作られた製品サンプルが各二ずつ、計約160個を保存用と菌検査用に分ける作業をします。その後、作られた製品の各材料の配合履歴とレシピを照合し、間違いがないかを確認していきます。間違いがある場合上司に報告しました。菌検査用のサンプルが多いので製品番号が重複しないようにランダムに選別していきます。選別したサンプルを適切に処理し菌の培養シートを作成して行きました。これらを毎日行いました。他に製品に対する

クレームの原因調査を行いました。研修中にあったクレームは1件で麺の表面がベチャベチャで芯が固い物がある、というものでした。これの原因究明をすべく、製品のレシピを少しずつ変えたテストサンプルを8つ打ち、試食しました。この8つのサンプルは配合から製麺、カット、パッキングまで全て行うなど、貴重な経験をすることができました。テストの結果、「これが原因じゃないのか？」という所まで行きましたが、最終的な結論は出ませんでした。引き続き調査するそうです。



図1 研修風景（培養シート作成中）

5. 研修を通して

研修中のパートナーはベトナム出身で British English を話す方でした。最初はうまく聞き取れませんでしたでしたが、研修期間後半には聞き取れるようになりました。この研修を通して、なぜ小麦から麺ができるのか、グルテンやかん水、塩がどのように作用しているのかなどを学ぶことができました。また、研修中お世話になったマサさんという方はベトナム語とメキシコ語を少し話せます。従業員のほとんどがその二つの言語で話すようコミュニケーションを取れるように学んだそうです。このような姿勢がととてもとても大事なのだと感じました。

そして、参加理由に書いた通り、自分の英語能力を把握することができました。帰国後はオンライン英会話で磨きをかけていきます。

私の大学での専攻は化学なので今回行った菌検査

は自分の専門ではありません。しかし、専門外だからとか、不得意だからというのは言い訳でしかないので自分ができる精一杯のことをする重要性も学びました。

6. ホームステイ

ホストマザーとその兄弟、お母さんという構成でした。スパニッシュ系の人で、家庭ではスペイン語を話していました。とても親切にしてくれ、ビンゴやサンフランシスコなどに連れて行ってくれました。

7. おわりに

山田さんは「一緒に働く仲間を、個人として付き合うことが重要だ。」と仰っていました。

がーまるちょぼという世界で活躍するパントマイマーの二人組は「僕たち日本のパフォーマーは元々レベルが高いんです。」とっていました。

研修先企業の次期社長のヒロさんは「日本の細かさはアメリカでは通用しないが気配りは通用する。自分の強さを持って何事にも挑んで欲しい。」とっていました。

日本人であることに誇りを持つことももちろん大切ですが、日本人という小さい括りで自分を見るのではなく、地球人という変かもしれませんが、そのような大きい括りで自分や世界の人を見ることが大切なのだと感じました。1人1人考えること、感じること、信じるものなどは違いますが、それらを認め合うことが重要であると学びました。

グローバル人材とは世界の人と英語で話し、海外で活躍している人を指しているように感じている人も少なくないと思います。しかし、真にグローバル人材というものはなく、活躍している場、仕事をしている仲間が海外にいただけで、日本国内で働いても、これから自分たちに求められることは彼らと同じなのではないかと思います。グローバル人材という考え方を否定するわけではありませんが、私は固定観念に囚われず、これからは何事にも挑戦していきます。